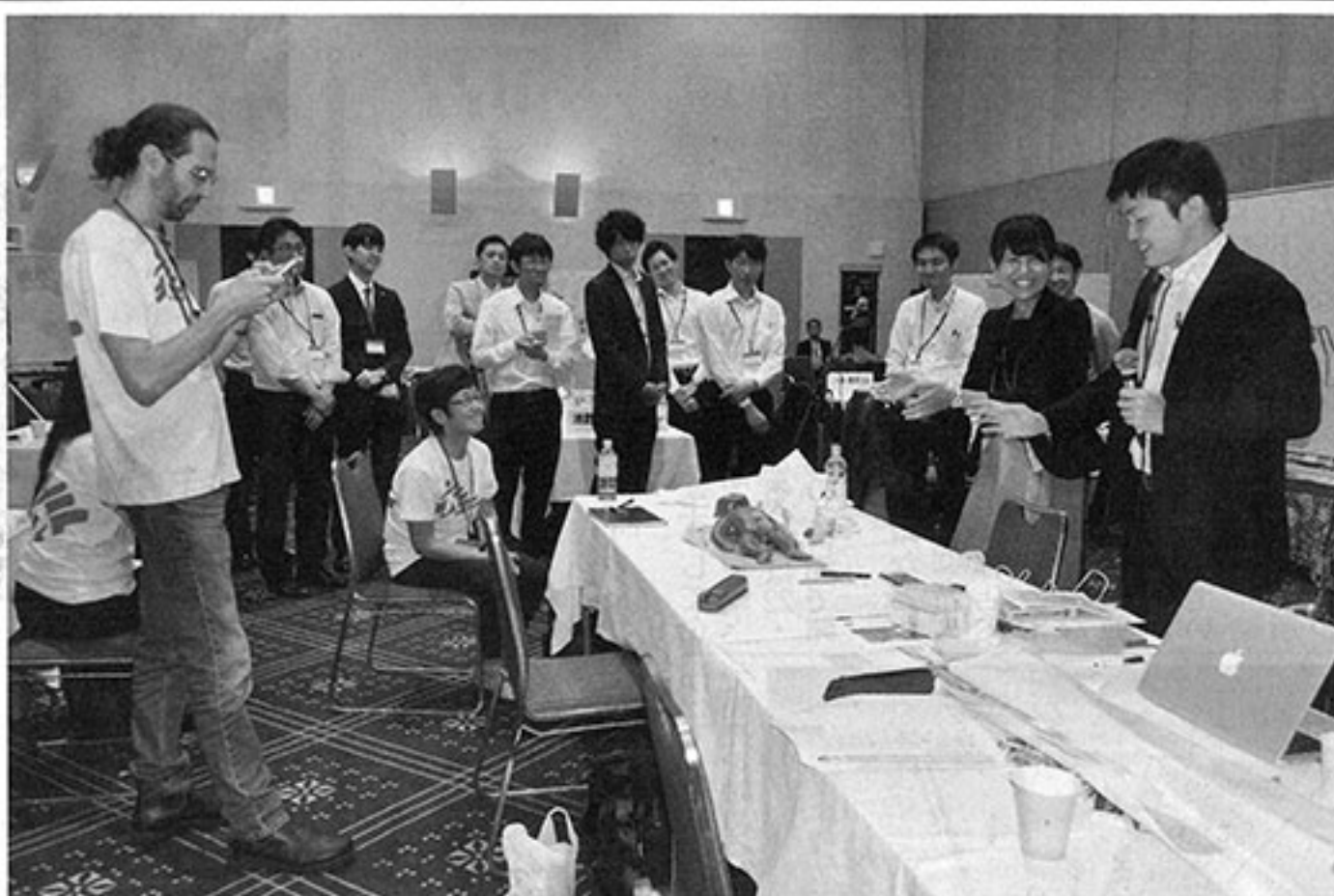


マスター手術者の技を学ぶ

医療機器寺子屋で
スタンフォード大教育法 グループ議論から解決策

豊橋ライブデモ

厳選されたマスター手術者の手技をライブや座
学を通して学べる「第9
回豊橋ライブデモ」が
20日、ロワジールホ
テル豊橋で開かれた。そ



スタンフォード大学の教育法を活用して行われた
医療機器寺子屋＝ロワジールホテル豊橋で

の中で医療機器寺子屋と
題した、スタンフォード
大学の教育法を取り入れ
たユニークな取り組みが
行われた。

同ライブは、素晴らしい
手術の技や、新しい技
術を多くの医師に知って
もらおうと毎年開いてい
る企画。医療機器開発な
どについても議論してい
る。

同寺子屋には、医療機
器に関わる中小企業の若
手社員ら31人が参加。国
境なき医師団と、スタン
フォード大学日本支店の
ような存在の「ジャパン
バイオデザイン」が協力
して行い、新興国で誕生
した赤ちゃんの死亡を減
らすための機器について
のアイデアを出した。

同大が開発した教育法
は、課題に対してグルー
プで議論をしながら解決
策を模索していくという
手法で、グループやフェ
イスブックなど、米国の
大手企業で採用されてい
る。社会問題に対して解
決できる新商品の開発に
つながると評価されてい
る。

寺子屋では5～6人で

チームを組み、1日半か
けて新しい医療機器のコ
ンセプトを議論。生まれ
たばかりの赤ちゃんの呼
吸が停止した際に、改善
できるベッドなどのアイ
デアが出された。

コーディネーターを務
めたスタンフォード大学
主任研究員の池野文昭さ
んは「わずか1日半の時
間だけでしたが、素晴ら
しいアイデアが次々と出

された。この教育法が日
本で普及して、さまざま
な分野でイノベーション
を生み出せる環境づくりに
尽力したい」と話して
いた。
(竹下貴信)